

試験依頼番号：2020D-BT-1261

## 試験検査報告書

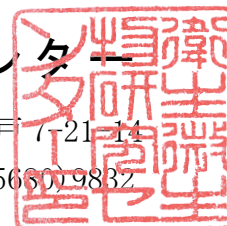
試験依頼者： 株式会社キッツマイクロフィルター  
検 体： 本報告書中に記載  
試験項目： ろ過性能確認試験  
試験責任者： 李 新一

2021年01月08日、当センターに提供された検体について行った  
試験結果は次のとおりです。

2021年02月19日

衛生微生物研究センター

〒125-0062 東京都葛飾区青戸 7-21-14  
TEL 03(5680)9831 FAX 03(5680)9832



---

本報告書の転載につきましては当センターに事前にご連絡ください。

## ろ過性能確認試験

### 1. 試験目的

JIS S 3201 を参考とし、検体の試験菌に対するろ過性能を調べる。

### 2. 検体

スーパーデリオス(2012年製) 未使用品

スーパーデリオス(2012年製) 大清水湧水 200L 通水後

スーパーデリオス(2020年製) 未使用品

スーパーデリオス(2020年製) 大清水湧水 200L 通水後 各 1 点

---

合 計 4 点

### 3. 試験菌

*Brevundimonas diminuta* NBRC 14213

*Escherichia coli* NBRC 3972

### 4. 試験方法

JIS S 3201 : 2019 付属書 B (参考) 細菌除去性能試験方法を参考に、試験菌を追加して試験を実施した。試験菌液の調製と生菌数測定は JIS K 3835 を参考にした。

#### 4-1) 試験菌液調製

試験菌をソイビーン・カゼイン・ダイジェスト寒天培地に接種し、30～35℃で24時間培養後、滅菌水を用いて菌数が $10^5$  CFU/mL以上になるように調製したものを試験菌液とした。

#### 4-2) 本試験

検体（ボトル）内へ試験菌液を入れ、検体（ボトル）を押し、600 mL 通液した。ろ過後の試験菌液を100 mL採取し、生菌数を寒天平板塗抹法で測定した。すなわち、試験菌液の10倍希釈系列を生理食塩水で調製し、ソイビーン・カゼイン・ダイジェスト寒天培地に接種後、30～35℃で48～72時間培養し、生育した集落をカウントした。

また、細菌補足性能Mを下記の計算式で算出した。

$$M = \log_{10} (A/B)$$

A: 通液前の試験菌液の生菌数(CFU/mL)

B: 通液後の試験菌液の生菌数(CFU/mL)

### 5. 試験結果

検体のろ過性能確認試験結果を表1に示した。

表 1. 検体の試験菌に対するろ過性能確認試験成績

検体名	試験菌	生菌数 (CFU/mL)		M
		通液前	通液後	
スーパーデリオス (2012 年製) 未使用品	<i>B. diminuta</i>	$2.1 \times 10^6$	—	>5.3
	<i>E. coli</i>	$6.8 \times 10^5$	—	>4.8
スーパーデリオス (2012 年製) 大清水湧水 200L 通水後*	<i>B. diminuta</i>	$1.7 \times 10^6$	—	>5.2
	<i>E. coli</i>	$5.6 \times 10^5$	—	>4.7
スーパーデリオス (2020 年製) 未使用品	<i>B. diminuta</i>	$8.9 \times 10^5$	—	>4.9
	<i>E. coli</i>	$9.0 \times 10^5$	—	>5.0
スーパーデリオス (2020 年製) 大清水湧水 200L 通水後*	<i>B. diminuta</i>	$7.2 \times 10^5$	—	>4.9
	<i>E. coli</i>	$7.3 \times 10^5$	—	>4.9

*B.* : *Brevundimonas*, *E.* : *Escherichia*,

\*: 試験菌以外の微生物が検出された、

M =  $\log_{10}$  (通液前の試験菌液の生菌数(CFU/mL) / 通液後の試験菌液の生菌数(CFU/mL))、

— : 培養により菌が検出されない (<10 CFU/mL)。

以上